

2018 年度事業報告

(2018 年 4 月 1 日 - 2019 年 3 月 31 日)

I. 会員数 (2019 年 3 月 31 日)

(1) 名誉会員

2018 年 3 月 31 日会員数	5 名	
名誉会員現在数	5 名	(0 名減)

(2) 正会員

2018 年 3 月 31 日会員数	1,069 名	
2018 年度新入会員数	65 名	
2018 年度退会者数	60 名	
内訳	希望退会者	60 名
	物故者	0 名
正会員現在数	1,074	(5 名増)

(3) 維持会員

2018 年 3 月 31 日維持会員数	88 社	
2018 年度入会社数	0 社	
2018 年度退会社数	0 社	
維持会員現在数	88 社	(増減 0)

II. 機関誌送本および販売数

(1) 送本数	会員区分	送本数
国内	名誉会員	16 冊
	正会員	1,778 冊
	維持会員	872 冊
国外	正会員	16 冊
	小計	2,682 冊
(2) 販売数		97 冊
(3) 贈呈数	箇所数	送本数
国内	10	39 冊
国外	5	20 冊
	小計	59 冊
合計機関誌送本数		2,838 冊 (2 冊増)
(4) その他		

機関誌を広告代理店に提供、バックナンバーとして販売。残部は在庫。

III. 第 65 回通常総会

開催年月日： 2018 年 5 月 17 日

開催場所： 富山県民会館

IV. 理事会、評議員会

(1) 理事会 4 回開催

① 第 1 回 開催年月日： 2018 年 4 月 25 日

開催場所： 東京大学農学部セイホクギャラリー

② 第 2 回 開催年月日： 2018 年 5 月 17 日

開催場所： 富山県民会館

③ 第 3 回 開催年月日： 2018 年 11 月 16 日

開催場所： 中央大学駿河台記念館

④ 第 4 回 開催年月日： 2019 年 3 月 15 日

開催場所： 書面審議

(2) 理事・評議員懇談会 1 回開催

開催年月日： 2018 年 5 月 15 日

開催場所： 富山県民会館

V. 定期学術集会の開催

第 65 回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催した。

会期： 2018 年 5 月 16 日（水）～18 日（金）

会場： 富山県民会館

会長： 久和 茂（東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻）

参加者： 1,010 名

VI. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、会員に希望配布した。

発行年月日	巻	号	備考
平成 29 年 4 月 1 日	67	2	
平成 29 年 5 月 1 日	67	サブリメント号（電子配信）	
平成 29 年 7 月 1 日	67	3	
平成 29 年 10 月 1 日	67	4	
平成 30 年 1 月 1 日	68	1	

VII. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 2018 年度学会賞受賞者を表彰した。

1) 功労賞 (2 名、五十音順)

伊藤 豊志雄 会員 (公益財団法人実験動物中央研究所)

笠井 憲雪 会員 (東北大学大学院医学系研究科)

2) 安東・田嶋賞 (1 名)

中潟 直己 会員 (熊本大学生命資源研究・支援センター)

「マウス生殖工学技術の開発・改良とそれら技術の国際標準化に向けた取り組み」

3) 奨励賞 (2 名)

濱田 理人 会員 (筑波大学医学医療系)

「転写因子 *MafB* のマクロファージにおける機能解析」

和田 健太 会員 (東京農業大学生物産業学部)

「順遺伝学に基づく眼球疾患モデル動物の原因遺伝子の同定」

4) 2017 年 *Experimental Animals* 最優秀論文賞 (1 編)

高橋 剛、長谷川清香、福富友紀子、原田千鴻、古郡真宗、関 優太、吉川欣亮、
和田健太

*A novel missense mutation of *Mip* causes semi-dominant cataracts in the *Nat* mouse*

「*Nat* マウスの半優性白内障を引き起す *Mip* の新規ミスセンス変異」

(2) 2017 年日本実験動物学会国際賞の表彰を行った。

2017 年受賞者 (4 名)

中国 : Nana Zhang

台湾 : Yuan-Chi Teng

インドネシア : Fitriya Nur Annisa Dewi

韓国 : Dae Yong Yoo

2016 年受賞者 (1 名 : 2017 年度来日できなかったため)

マレーシア : Nur Fazila Binti Saulol Hamid

(3) 2019 年度学会賞受賞者を選考した。

1) 功労賞 (3 名、五十音順)

伊藤 喜久治 会員 (日本エスエルシー株式会社)

小幡 裕一 会員 (理化学研究所バイオリソース研究センター)

芹川 忠夫 会員 (京都疾患モデル研究所)

2) 安東・田嶋賞 (1 名)

浅野 雅秀 会員 (京都大学大学院医学研究科)

「遺伝子改変技術に基づく多彩な生命現象の理解と疾患モデルの開発～糖鎖、エ

ピジエネティクス、サイトカイン関連遺伝子の解析から～」

3) 奨励賞 (2名、五十音順)

井上 貴史 会員 (実験動物中央研究所)

「コモンマーモセットによるヒト疾患モデル開発のための獣医学的研究」

宮田 治彦 会員 (大阪大学微生物病研究所)

「ゲノム編集技術を用いた精子機能の解析」

4) 2018年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (1編)

秋山健太郎、蕨 栄治、岡田浩介、柳川 徹、石井哲郎、巨瀬勝美、徳重克年、石毛和紀、溝上裕士、山縣憲司、鬼澤浩司郎、有泉俊一、山本雅一、正田純一

Deletion of both *p62* and *Nrf2* spontaneously results in the development of nonalcoholic steatohepatitis

「*p62:Nrf2* 二重欠損マウスは非アルコール性脂肪性肝炎を自然発症する」

(4) 2018年日本実験動物学会国際賞の選考を行った。

2018年受賞者 (5名)

マレーシア : Ms. Nur Syafinaz Zainal

フィリピン : Ms. Charmaine R. Peredas

スリランカ : Ms. Hesika Varnakulasingham

タイ : Ms. Ratchaneevan Aeimlapa

シンガポール : Dr. Sai Bo Bo Tun

VIII. 研究・調査活動

編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、国際交流委員会、広報・情報公開検討委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規定等検討委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会、実験動物管理者研修制度委員会、人材育成委員会、将来検討委員会、動愛法等対策委員会、外部検証委員会を設置し、活動を行った。

IX. 関連学協会との連携

- (1) 日本学術会議、生物科学学会連合及び動物実験関係者連絡協議会の活動に協力した。
- (2) 国内の関連学会・協会との学術・情報交換を進め、その活動に協力した。
- (3) 国際実験動物科学会議 (ICLAS) 及びアジア実験動物学会連合 (AFLAS) における活動を継続した。
- (4) 海外関連学協会との学術・情報交流を推進した。
- (5) 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターなど実験動物・動物実験に携わる機関の活動に協力した。

X. その他

- (1) 2018年度維持会員懇談会を実施した。(財務特別委員会担当)

- 講演会「医薬品開発の成功確率を上げるために」
話題提供「Zebrafish の品質管理」
2018年11月16日、中央大学駿河台記念館、
参加者：76名（維持会員64名、非会員12名）
- (2) 第7回実験動物科学シンポジウムを開催した。(学術集会委員会担当)
「人獣共通感染症研究 ―ワンヘルスの取り組みと動物実験の役割―」
2018年6月30日、北海道大学学術交流会館
参加者：45名（会員19名、非会員26名）
- (3) 第65回大会期間中に委員会主催のシンポジウムおよびセミナーを開催した。
感染症対策委員会担当：実験動物施設の品質管理 ～微生物統御の観点から
学術集会委員会担当：健康長寿をめざした老化研究の推進
動物福祉・倫理委員会担当：
改訂版実験動物の飼養保管基準解説書に基づく飼養保管基準の解説
教育研修委員会担当セミナー：
集合胚とは？ 集合胚の道德・倫理を考える（参加者：136名）
動物実験における統計学～実際に統計を考察しよう～（参加者：129名）
動物実験における獣医学的管理 導入教育におけるガイダンス（参加者：217名）
- (4) 実験動物管理者等研修会を2回開催した。(実験動物管理者研修制度委員会担当)
第10回実験動物管理者等研修会
2018年9月26-27日 東京大学農学部3号館4階会議室
参加者合計：73名（会員8名、維持会員団体職員13名、非会員52名）
第11回実験動物管理者等研修会
2019年2月12-13日 東京大学農学部3号館4階会議室
参加者合計：66名（会員11名、維持会員団体職員12名、非会員43名）
- (5) 外部検証促進のための人材育成講習会を開催した。(人材育成委員会担当)
2018年7月4-6日 東京大学弥生講堂セイホクギャラリー
2018年9月14-16日、東北大学医学部教育基盤研究棟
国動協、公私動協及び日本実験動物学会から推薦された外部検証専門員候補者48名が受講。
- (6) 2018年度動物実験に関する外部検証事業として25機関の外部検証を実施した。(外部検証委員会担当)
実施機関：国立大学6機関、公立大学4機関、私立大学12機関、国立研究開発法人3機関
- (7) 動物実験の外部検証：2019年度の実施準備に向けた事前説明会を開催した。(人材育成委員会担当)
2019年1月24日 東京大学山上会館大会議室

参加合計：103 機関、185 名

(8) 第 68 回日本実験動物学会総会の大会長を選出し開催概要を決定した。

会 期：2021 年 5 月（予定）

会 場：東京都江戸川区（予定）

大会長：今井 良悦（武田薬品工業）